（地図記号の蘊蓄を聞きながら）
33-1　新幹線に乗らずに「新幹線」を訪ねる？　（距離約 16km）

「新幹線」集落の公民館　／　（map1）

【街歩きの概要】

街歩き・野歩きに使用する地形図（主に国土地理院が発行している等高線入りの地図を「地形図」と呼ぶ。その地形図の地図記号などを知るために、静岡県の三島駅から函南駅まで机上散歩をしたのち、現地を訪ねて地図記号や地図表現についての知識を深める。

地形図に関する基本的な知識を獲得する、深めるといっても、そう堅苦しく考える必要はない。「ああ、そうだったのか」「ふーん、そのような意味があったのか」などと、感じられればいい。

そして、三島市の方には申し訳ないが、三島という場所を選定したことに特別の意味はない。身近な都市近郊などで、あるていどの地物・地形が含まれた地域を選定して、おなじように地図記号を連ねるルートを選定して、机上と現地の対照を試みるといいだろう。

地図豆知識：（道路元標と）地図表現　（再掲）

「地図は、視点を無限遠において地上の様子を表現したもの（正射影という）」であり、立体的な構造部分では、最上部にあるものが優先して表現される。

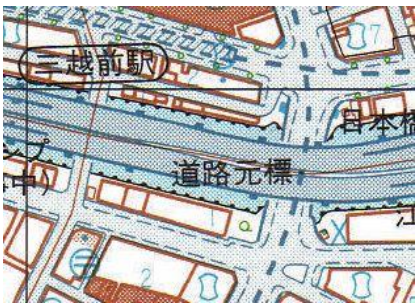
上部の構造物や地形の表現を優先するとなると、高架道路の下などの建築物、地形の下にある地下鉄（鉄道の地下の部）やトンネル（道路や鉄道の地下の部）などは、原則として省略されることになる。ただし、重要かつ一定規模のもので、重複表示しても表現を損なわないものは破線で表現する。

となると、地図は単純に平面的に表現していると思われがちだが、そうでもない。初歩の読み手には困難を強いることになるが、地形については等高線を使用して立体表現している。一方、道路や鉄道、建物などの地物の立体（感）は0.2㎜の白部が、その役割を果たしている。特に、一色刷りの地図では、識別を確かなものとするためにも、この空白が力を発揮する。道路や鉄道の立体交差、記号と地物の識別など、地図を良く見ると0.2㎜の白部（地図屋は「微量の白部」という）が、随所に見られる。

この魔術により、利用者は知らずのうちに立体感を感じとるのである。

さて、地図は空中写真からの情報を基本として作成される上から見えた状態とその情報が重要視されがちであるが、一般の地図利用は、横視点で得られた情報との対比で行なわれる。したがって、地図を作る際には、横視点を大事にしなければならない。何が言いたいかといいうと、空中写真から見て、規模が大きくて重要そうに見える構造物でも、地上を歩くときに必ず目標物になるとは限らない。駅頭で目に付くものは、派手なサラ金やホテルの看板ということもあるだろう。使い手には、大きな建物の中に埋まりそうな交番が重要なこともある。

サラ金の看板はともかく、地図使い手の視点を考えれば現地の調査無しに地図はできない。



橋の中央にある道路元標と地図表現（1/10,000地形図「日本橋」）

そして、1/10,000地形図の日本橋付近に目を凝らすと、おかしなところに「道路元標」の文字が見える。

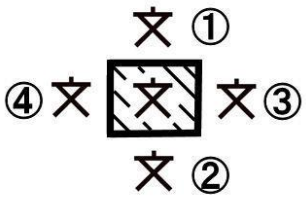
いかにも首都高速道路の上にあるように表現されている。

日本橋現地には、橋の北のたもとにあるモニュメントとは別に、橋の中央には日本の国道の起点となる「日本国道路元標」のプレートが埋められている。地図製作者はどうしても橋の中ほど路上にあって、上空から見ると首都高速上下線のわずかなすき間に見えるはずの標識を表現したかったのだ。地図上でも首都高速上下線のすき間に書いたつもりだが、地図表現としては少々無理があり、やや苦しい。だが、地図技術者の細かい仕業に外野からの拍手が欲しい。

近ごろ、日本橋のかつての景観を取り戻そうという動きもあるから、工事が終了した暁には、地図の上にも晴れやかな原風景が表現されるだろう。

そして、日本橋を渡りきった先には、二本の警棒を交叉させた形をシンボルとした交番の記号がある。また、この界隈の生業を象徴するように、百の文字を丸で囲んだデパートの記号や、天秤ばかりの分銅の形をした（昔の両替商の看板にあった）銀行の記号も多く見える。これらは、地図の決まり（「図式」という）では「建物記号」と呼ばれるもので、それぞれの建物の用途を示している。

記号は建物の中心に記入するのが原則だが、建物が小さくて内部に表記できないときには、優先順位に従って建物の上下左右に添わせてその記号を配置する決まりになっている（正確には、これは従来の紙地図だけのことであるから、「決まりになっていた」と過去形になる）。



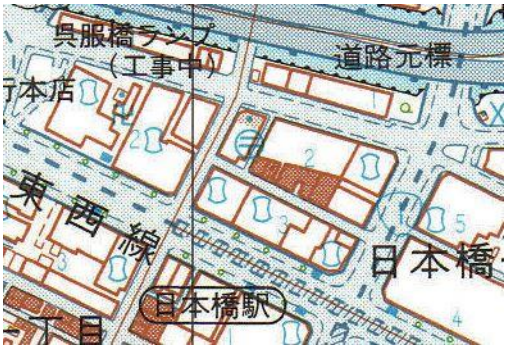
建物記号配置の優先順位

その原則に縛られて、日本橋際の交番記号の左には、印刷の汚れかと思うような、描いたこと自体に苦心が感じられる、ごくごく小さな建物が見え、その中には交番の記号と対になる「・」が付記されている。

それほどまでして、小さな建物を書くのはこの地図記号（建物記号）の性質上、建物の存在が必須だからだ。世界的にも評判のいい交番だからといって、特別な配慮をしたというわけではない。

さらに、しばらくの間地図表現のことに注目して歩くと、図中の「八重洲一丁目」にある鉄鋼ビルの中には、建物の一角を占める郵便局も表現されている。それは、大きなビルのこの一点の位置に郵便局があることを示す。もちろん上層階に存在することはないが、あったとしてもそれは表現できない。

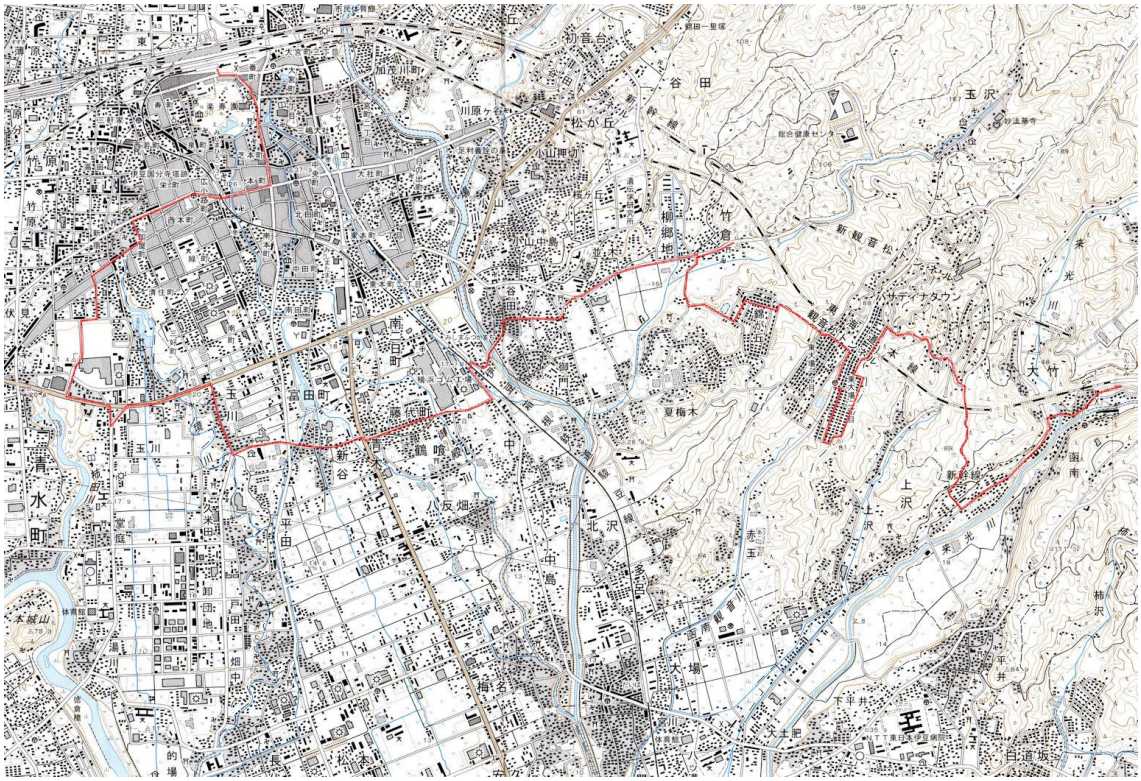
芸の細かさを知っていただけただろうか。



銀行の記号が多数ある地形図（1/10,000 地形図「日本橋」）

【道順】

JR 三島駅→楽寿園・三島市立図書館→三島神社→水準点 N058-1→加屋町の境橋→サントムーン柿田川・電子基準点「清水町」→柿田川湧水→三島二日町駅・1 等水準点 No.58→大場川橋・谷田集落→三島警察署→剣刀石床別名神社→竹倉温泉→八王子神社→錦が丘→東大場→二等三角点「大場村」→パサディナタウン→新幹線→北条宗時墓碑→JR 函南駅



全ルートマップ

【街歩き解説】

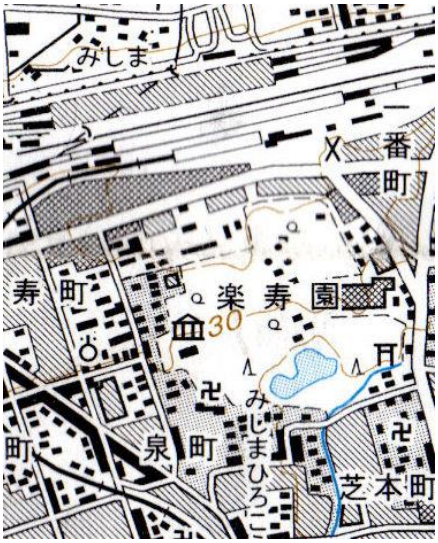
①　史跡・名勝・天然記念物、針葉樹林・広葉樹林、特定地区界（map2 を参照）

三島駅から始めて、函南町の「新幹線」集落までの道筋をたどる。

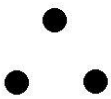
駅名の表示方法については後述するが、「みしま」と、ひらがな表記がある JR の駅を出るとすぐ、楽寿園という庭園がある。庭園であることは、その名称からしても予想できる。その「楽寿園」の注記文字中心の上方に、点を三角形状に並べたのが、史跡・名勝・天然記念物の記号である。同じ記号は、やや南東にある三嶋神社の「キンモクセイ」にもあって（map3）、こうした貴重な樹木やコケ類生育地などの天然記念物も地図表示される。

そして、白抜きのなかに針葉樹や広葉樹の記号が配置された庭園の周囲は、小さな破線でかこまれている。これは、特定地区界という記号で、自衛隊やゴルフ場などの一般者が自由に立ち入りできない区域を示している。

（「みしま（駅）」の下に左右に伸びるのが新幹線の、次が東海道線の、そして伊豆箱根鉄道駿豆線の各駅（ホーム）である。（1/25,000 地形図「三島」以下同じ））



（map2）　／　楽々園庭園



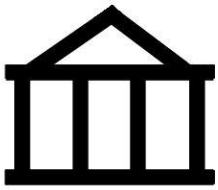
史跡・名勝・天然記念物　／　広葉樹林

針葉樹林　／　特定地区界

②　博物館（map2）

楽寿園内西の隅には、いかにも博物館を思わせる記号が見える、同記号は、2002 年に公募によって決められたもので、博物館法による「博物館」と「博物館相当施設」などに使用される。

名称が、資料館、美術館、文学館、科学館などであっても、同法に規定する「博物館」などであれば、この記号が使われるのだが、水族館、動物園、植物園だけは、なぜか文字で表記（注記）するきまりになっている。現地にあるのは、三島市郷土資料館である。

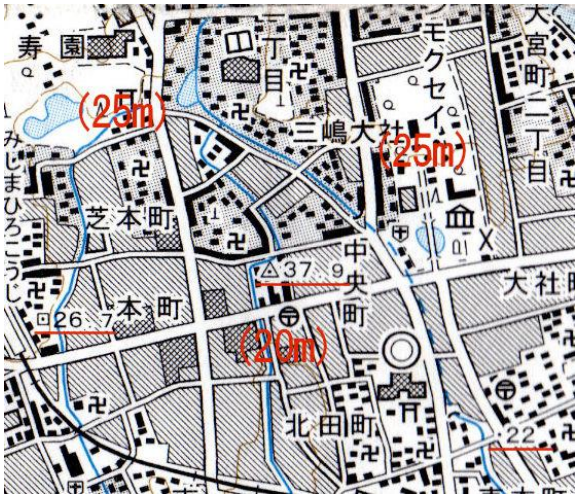


博物館・美術館

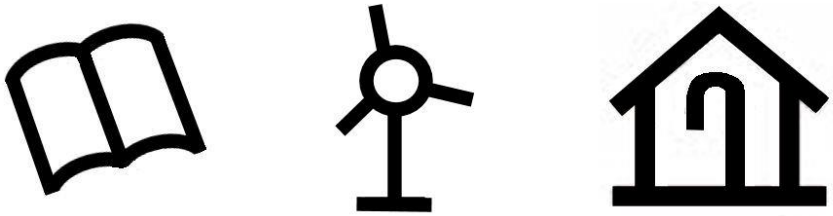
③　図書館（map3）

そして、楽寿園の東へ、駅前へ通じる 2 車線の道路と大宮町の泉から流れる小川を渡った先には、本を広げた形の図書館の記号が見える。三島市立図書館だ。

やはり図書館の記号も最近の社会の動きに合わせて博物館と同時に決められた。同じように公募で決められた記号には、風力発電用風車と老人ホーム（いずれも 2006 年）があって、これらは小中学生の応募によるものである。



（map3）



図書館　／　風車　／　老人ホーム

④　建物上にある三角点（map3）

図書館をあとにして、大宮町を源とする小川に沿った１車線の道を南へと進むと、標高37.9m の三角点がある。ちょっと訪ねて見たいも気がするが、残念ながらこれは止めにした方がいい。やや西の「みしまひろこうじ」駅近くにある水準点とその標高が 26.7m とある。東南にある市役所のさらに先の「東本町一丁目」あたりには、地図作成時に図化機と呼ばれる器械で測量した「標高点」があって、その標高は 22m とある。

これらの標高は、いずれも地上の高さである。一方三角点は屋上に設置される場合もある。表示された三角点の高さは、付近の地上標高より 10m ほどより高い。ビルの屋上に設置した三角点であると予想できるから、許可なしに立ち入ることはできない。

また、三角点、水準点、標高点、そして等高線に添えられた「等高線数値」などを手がかりにすれば任意地点の標高が明らかになる。（map3）の例では、水準点（26.7m）、標高点（22m）の標高と、1/25,0000 地形図の等高線間隔が 10m であることから、下辺にある茶色実線の等高線数値は 20m、上辺にある破線は 25m である。これを頼りにすれば、周囲の任意地点のおおよその標高を知ることができる。

三角点　／　水準点

⑤　国道（map4）

みしま駅から南へ進む2車線の道を、「本町」「南本町」とたどって南下すると、茶色の網点を重ねた東西に走る道路に到達する。

この道路は、国道を示している。地図区画の両端や要所には（1）のように国道路線番号が表示される。それは、国道であれば、それが軽車道、徒歩道、あるいは階段（国道339号線、竜飛岬）などの車の通れない道路であっても同じように表現する。ただし、国道16号線の千葉県富津市金谷と神奈川県横須賀市久里浜、国道58号線の鹿児島県鹿児島市と沖縄県那覇市間の海上部分などの「海の国道」とも呼ばれる水の上は、道路が無いから表現しない。関門トンネル（海底）も含めて、トンネル部分も同色の情報が重複して識別できなくなるから網点表示はしない。

国道（2車線の国道と徒歩道の国道）

⑥　独立建物と総描建物（map3、map4）

ここまで道路の両側に、広がっていた市街地や住宅地の建物は、大きくは独立建物（大、小）と総描建物（大、小）に区分される。それぞれ単独の建物をそのまま表現したもの、複数の建物をまとめて表現したものである。

「サントムーン柿田川」（map4）は「大の独立建物」、三島市郷土資料館（map2）は「小の独立建物」、先にあった三島市立図書館（map2）は中高層（階）の独立建物なのだ。

同じように、「本町」（map3）注記の右にある斜線表示になっているのが「大の総描建物」、その右手に寺院周辺の道路に沿って黒く塗られているのが「小の総描建物」、さらに三島駅の南口（map2）にある斜め格子線表示は「中高層の建築街」である。

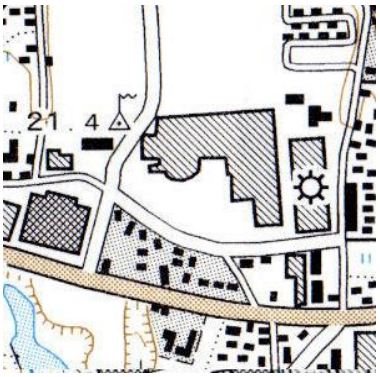
独立建物（小）　／　独立建物（大）

総描建物（小）　／　総描建物（大）

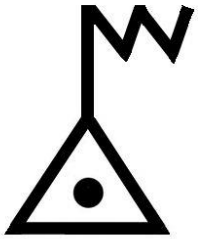
中高層（独立）建物　／　中高層建築街

そして、国道を西へ進み、境川を渡って清水町へ入り、湧水で有名な柿田川の北には、工場の隣に大きな独立建物がある（map4）。利用者の立場からすれば、このような目標になる建物なら、記号や文字が表記されるべきなのだが、官の作成する地形図では、えこひいきがないようにという配慮もあって、民間商業施設の名称はほぼ表示されない。

現地は、「サントムーン柿田川」と呼ばれるショッピングセンターだ。



（map4）　／　と電子基準点「静岡清水町」



電子基準点

⑦　電子基準点（map4）

そのショッピングセンターの西には、電子基準点がある。

電子基準点は、GPS 衛星からの電波を受信するハイテク三角点で、全国各所に約 1200 点設置されている。その内容から、三角点と電波塔の記号を合わせたデザインとなっている。

⑧　ＪＲ鉄道とＪＲ以外の鉄道（map3）（map5）

国道を東に進んで三島市内「南二日町」までもどり鉄道を渡る。

ここを走るのは伊豆箱根鉄道だから、太めの黒い線に定間隔に枕木が並ぶ「ＪＲ以外の鉄道」の記号で表示する。この記号は従来の私鉄のほか、第三セクターの鉄道にも使われ、枕木が 2 本なら複線であることを示す。

もしも JR 鉄道なら、みしま駅近くに東西に表示されているような、おなじみの白と黒が交互に表現される旗竿状の記号を使用する。これは、旧国鉄の記号であったが、JR も民営になったのだが、他の民営鉄道とちょっと区別している。

ＪＲ鉄道（単線）と駅　／　ＪＲ以外の鉄道（単線）と駅

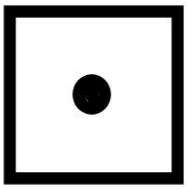
伊豆箱根鉄道　／　(map5)

⑨　水準点（map5）

「みしまふつかまち」駅の南には、先ほども出てきた水準点がある。

高さが正確に分かっている水準点は、明治・大正期に、国道に沿って 2 キロメートル間隔で設置したもので、全国に約 2 万点ある。

このような、現在の国道から離れた場所に水準点があれば、かつての国道が周辺にある証拠にもなる。国土地理院から案内図（「点の記」と呼ぶ）を入手すれば、標石探しは容易になる。



1 等水準点「No.58」

（「水準点の」看板の近くに標石がある）

⑩　樹木に囲まれた居住地（map5）

「みしまふつかまち」駅をあとにして、大場川を渡ると「谷田」という名の集落がある。

　同集落のように、建物の周囲を黒の（ウェブ公開の地図なら緑）網点で囲んだ記号を、「樹木に囲まれた居住地」と呼び、建物のまわりに、庭木や樹木がある屋敷森を表現している。

　地図が軍用目的であったころには、軍事行動に差し支える見通しの悪い地域を示していた。現在のようすが、どれほどであるかは現地で確認してみなければわからないが、この記号がある集落は、おおむね古くから続いていると予想できて、これらの集落を連ねる歩きは楽しいものになるかも知れない。

大場川

谷田集落付近と「樹木に囲まれた居住地」

⑪　警察署と交番（map6）

「谷田」集落の北には、警察署がある。

　警察署の記号は、二本の警棒をかたどった交番の記号を、〇でかこんだものである。小中学校と高等学校も、もとの記号を〇でかこむと上位の施設になる。かつては、おなじような簡易郵便局と普通郵便局の例もあった。

三島警察署　/　（map6）

交番と警察署

小中学校と高等学校

⑫　消防署（map7）

「谷田」集落のやや東には、神社と消防分遣所がある。

　消防署の記号は、かつては消火のために使用した「さすまた」をデザインしたものである。ところが最近では、不審者の撃退用としても使用するから、少々まぎらわしい気もする。

三島消防署錦田分遣所　／　（map7）

消防署と神社、寺院

⑬　神社（map7）

そして、消防署の北側には神社があって、そこは、「谷田」と「御門」集落の鎮守の森かもしれない。

地図が軍用目的の時代には、こうした神社や寺院は軍隊の宿営地や住民の集合場所として活用できるため、正確に表示されてきた。三島の地形図も含めて、現在の地形図にはその名残があって、寺院や神社は、おどろくほど詳細に表示されているはずだ。

八王子神社　／　通猛寺

⑭　小学校と中学校（map7）

2 車線の道へ出て東へと進むと道の南に学校がある。

小学校と中学校は、地図記号の上では同格であるから、記号だけでは小学校と中学校の区別はつかない。そして、地方でよく見られる小学校と中学校が併設された場合でも、記号は一つしか表示しない。

高等学校は前記のとおりである。大学などを文字注記ではなく記号で表現する場合には、小・中学校の記号に（専）、（短大）、（大）を添える。

⑮　寺院（map8）

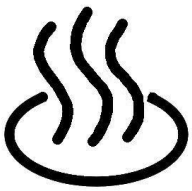
さらに東へ進み「竹倉」集落の手前などに寺院の記号がある。神社の際にも説明したが、官の地図で寺院の記号は正確に表現されている。

そして、寺院の記号は仏教寺院だけに使用する。新興宗教の教会や回教のモスク、キリスト教の教会には使用しない。かつては、回教のモスクやキリスト教の教会の記号もあったが、今はない。どうしても表示する場合は、文字表記となる。

⑯　温泉（map8）

「竹倉」の寺院、神社の記号のとなりには、湯壺から湯気が立ち上る形をした、おなじみの温泉の記号がある。

温泉は、原則として鉱泉や温泉が湧き出している泉や温泉井戸の場所に表示する。したがって、泉源が温泉旅館から遠く離れていると、温泉街に温泉記号が書かれないこともある。ここ（竹倉温泉）は、建物の間に記号があるから、その心配はないようだ。



（竹倉）温泉

（map8）　／　竹倉川

⑰ 河川（map8）

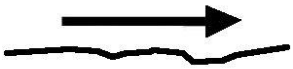
竹倉温泉をあとにして、東海道線に沿って函南駅方向へ向かう。

少し戻って小さな川を渡る。地図の中の青い線は水を表現している。川、海、池などの水ぎわ線や人工の水路などである。自然の川は、標高の高い方から低い方へと流れるが、等高線が読めなければ、平地を流れる川の流水方向は分からない。

三角点の項目で説明したように、三角点、水準点、標高点、そして等高線に添えられた「等高線数値」などを手がかりにすれば高低を知って、流れの方向も分かるだろう。

そこでも分からない場合は、図のように川のまわりにある茶色で表現された等高線を少しだけ色塗りしてみるとどちらに流れているかが容易に分かるだろう。まず、色塗りしたら、等高線の形に合わせて指で「Ｖ字形」を作って合わせる。そのとき、Ｖ字の底辺方向（が高い）から、Ｖ字の開いた→印の方向に川は流れる。

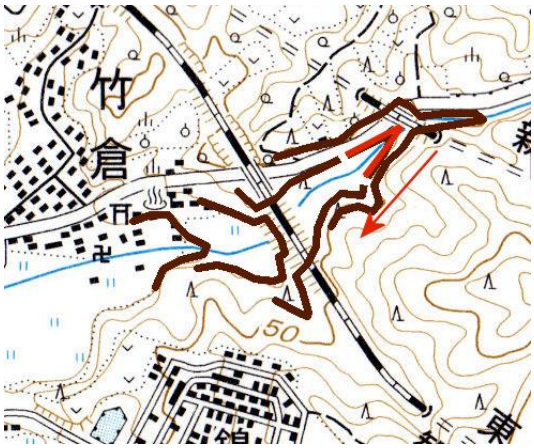
等高線も少なく、どう地図を読んでも、流れの方向がわかりにくい場合には、流水方向（→）が添えられる場合もある。

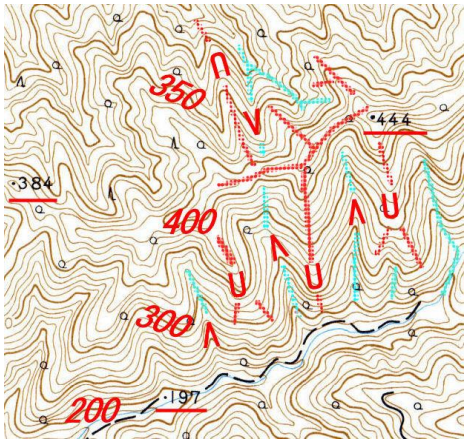


流水方向

さらに、地形図の等高線から尾根と谷の見分け方を知っておく。

図のように、標高の高い方から見て、指で作ったＶの字形と一致する方が谷である。





川の流れる方向　／　尾根と谷の見分け方

（高さを説明する「·444（m）」と「197（m）」があるから、どちらが高いかはすぐわかるだろう。地図の手前の徒歩道あたりに対して、中央部が高いことを示している。その標高の高い位置から指でＶ字を作って一致するところが谷、逆Ｕの字形になるのが尾根である）

⑱　池（map9）

小さな川を渡った先の道の両側には、水田が広がる。「錦が丘」の住宅地に入る前には右手には頂上に神社のある小高い山が、少し進んだ左手には周囲が被覆の記号）でかこまれた池が現れる。

沼、池、そして湖は、通常は水際が水色で（水涯線）で彩られ、内部は水色の網点で表現される。しかし、「錦が丘」の調整池のように、周囲がコンクリートで固められてしまうと、水際は直線に半円点が描かれた擁壁（コンクリート被覆）の記号が描かれる。同じ、調整池でも「東大場二丁目」の例では、周囲は土手になっているから、水際は水涯線で表現される。いずれにしても、池や沼の水際は、水漏れしないように水涯線か擁壁の記号によって閉じられる。

そのとき、池などが自然水面であって、湖沼の測量をした場合には、水深や水面標高が表示される。そして、地下水路とかれ川は水色の破線表示となる。

田

河川（水色）

擁壁（大）　/　　擁壁（小）

錦が丘貯水池

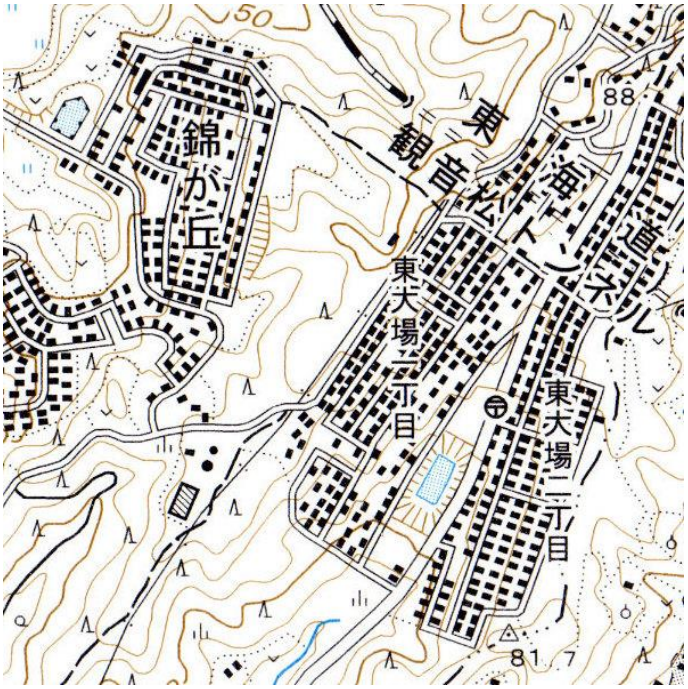
⑲　徒歩道（map9）

「錦が丘」と「東大場」の住宅地を結ぶ、黒色１本の破線で書かれた道路を「徒歩道」と呼ぶ。もちろん自動車は通行できない。徒歩道以外の道路は、おおむねすべて表現されるが、徒歩道は集落を結ぶもの、観光地などでよく利用されているものなど、主要なものだけが表現される。

　しかし、自動車社会では、徒歩道はしだいに使われなくなる傾向にあるから、地図に表示があっても、現地ではすでに不明になった徒歩道もあるから注意が必要だ。

　じっさいに、現地では徒歩道路を横切るように道路工事も行われて通行できない。

徒歩道



（map9）

⑳　郵便局（map9）

「東大場二丁目」の住宅内には、郵便局がある。

（少なくても、一部民営化で改廃が進むまでの）郵便局は、最も高密度にある公共施設だった。そのこともあって、地図の上でも維持管理が十分行われていたから、現地で特定できさえすれば、目標物として信頼のおけるものであった。

郵便局（休日などでは、赤いポストだけでは郵便局だとは分からない？）

21　三角点（map9）

「東大場二丁目」の東南に三角点の記号がある。

土木工事の測量や地図作成に、なくてはならないのが三角点と水準点である。地球上の位置が正確に分かっているのが三角点、高さが分かっているのが水準点、いずれも現地には四角い花崗岩の柱状になった石などが埋められている。

これも、国土地理院から案内図（「点の記」と呼ぶ）を入手すれば、標石探しは容易になる。

三角点「大場村」

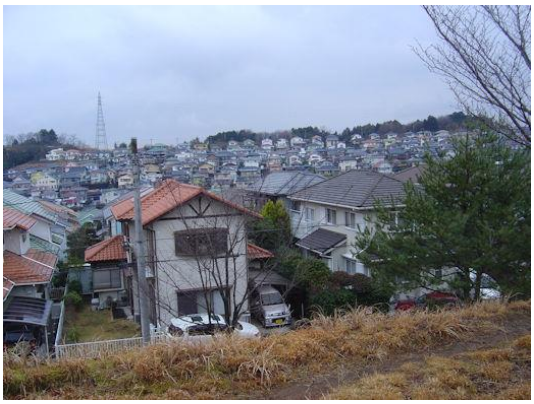
22　住宅地（map9、map10）

「東大場二丁目」から、北へ向かう。

ずっと前に通過した「谷田」のように、古くからある集落の住宅は、樹木にも囲まれて、おおむね不揃いに建っている。とくに、「東大場二丁目」の南に位置する「赤玉（あこお）」のような山林を背負った集落などでは、日当たりに面して並ぶことはあっても、地図の上では木片をばらまいたように存在する。

一方の新しく開発された住宅団地なら、区画された道路に面して、ドミノ倒しの積み木のように整然と並んでいるから、新旧住宅地はすぐ見分けられる。おなじ新しい住宅地でも、別荘地なら、ばらまかれた木片は、一般住宅以上に疎になって、住宅を結ぶ道路は、意味もなくくねくねとして特徴的である。

地図の上では別荘地風な「パサディナタウン」は、開発当初こそそうであったが、今では一般的な住宅地となっているようだ。



「東大場二丁目」の住宅

（map10）　／　「パサディナタウン」の住宅

23　送電線（map10）

地図にも苦手がある。それは、主に写真測量で作成することに原因がある。そして、現地をくまなく歩いて調査することにも限界があるからだ。

地図の作り手としては、山岳地の徒歩道、谷の奥深くにある滝、森林地帯の等高線などにやや自信がない。そして、地下鉄や地下水路などの地下の部分は、他者が作成した資料を信用して表示する。こうした自信のない情報は、おおむね破線で表示する。

反して、送電線は空中を走っているが、空中写真にはやや明瞭に映るから情報の確かさは高い。鉄塔位置も表現すれば、野山歩きに利用価値は高いのだが、地図のきまりではそうはなっていないのが残念だ。

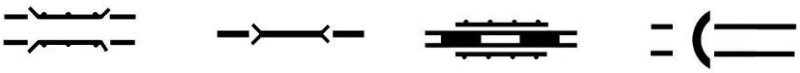
送電線

24　道路橋と鉄道橋（map11）

「東大場二丁目」から地図上の徒歩道をたどって、「新幹線」集落へ向かう。

東海道新幹線を渡る部分に、（道路）橋がかかっている。

道路橋の記号には、被開部といって、少し偉そうに両端に小さなひげがついているが、鉄道橋には、ひげはない。また、いずれの橋も長くなると半円形の橋脚の記号が、定間隔に並ぶが、これは実際の橋脚位置を示したものではない。あくまでも橋であることを表現する飾りである（この地図の範囲に例示はない）。



道路橋と鉄道橋・トンネル

（map11）

25　建物類似の構築物（map12）

「新幹線」集落の高まりから来光川方向を見ると、川の向こうにビニールハウス？が見えるはずだ。

　居住を目的としない建物を、「建物類似の構築物」と呼んで区別する。駐車場ビル、側壁の無い倉庫、厩舎や畜舎、（土台があって永久性のある）ビニールハウスなどである。ここにあるのは、畜舎かビニールハウスだと、地図読み人は予想する。

建物類似の構築物

（map12）

26　（「新幹線」）居住地名（map12）

地図中にある「新幹線」は、れっきとした（居住）地名である。

地図には、市区町村などが正式に決めた住所のうち、一般居住住宅のある場所に限って名称を記入している。そのことから、「居住地名」と呼ぶ。

大字界などが表現されている詳細な地図で調べると分かるが、この地域の正式な地名は、静岡県田方郡函南町上沢である。じっさい、集落の中ほどには「新幹線公民館」もあって、通称「新幹線」と呼んでいるようだ。

このように、正式な大字名の主たる集落から、やや離れた位置に新しい住宅地ができたことで、通称名で呼ばれる例は多くある。

この地では、新幹線の新丹那トンネル工事の際に事務所や宿舎が置かれたことから「新幹線」と呼ばれ、その後住宅地ができたのちも引き続き、「新幹線」と呼ばれているのだという。

27　「かんなみ」駅と駅舎（map13）

今回の机上散策の終点である「かんなみ」の文字の先には、四角い箱のように表示された駅の記号がある。ところが、これは駅舎を表現しているではない。

実は、駅の記号はプラットホームをあらわしていて、ホームが長くなれば、記号も長くなるといったものである。他の駅と見比べると明らかになる。

また、「みしま」「みしまふつかまち」「かんなみ」のように、地図上の駅名称は、ひらがなで記入するきまりになっている。一方で同じ駅でも、「隅田川駅」「梅田駅」のような貨物しか取り扱わない駅は、漢字で表示する。

函南駅　/　（map13）

28 構造物などの名称（map14）

（map14）

最後に文字表記の原則について考えてみる。

地名に限らず地図には、原則として正式名称を記入するのがきまりである。東海道新幹線の正式名称は「新幹線」、東名高速道路は「第一東海自動車道」である。ところが、地図には、それぞれ「新幹線」、「東名高速道路」のように表示されていて一貫性がないように見える。このように表示した理由は、一般利用者がどのように呼び、使用しているかを考慮した結果である。

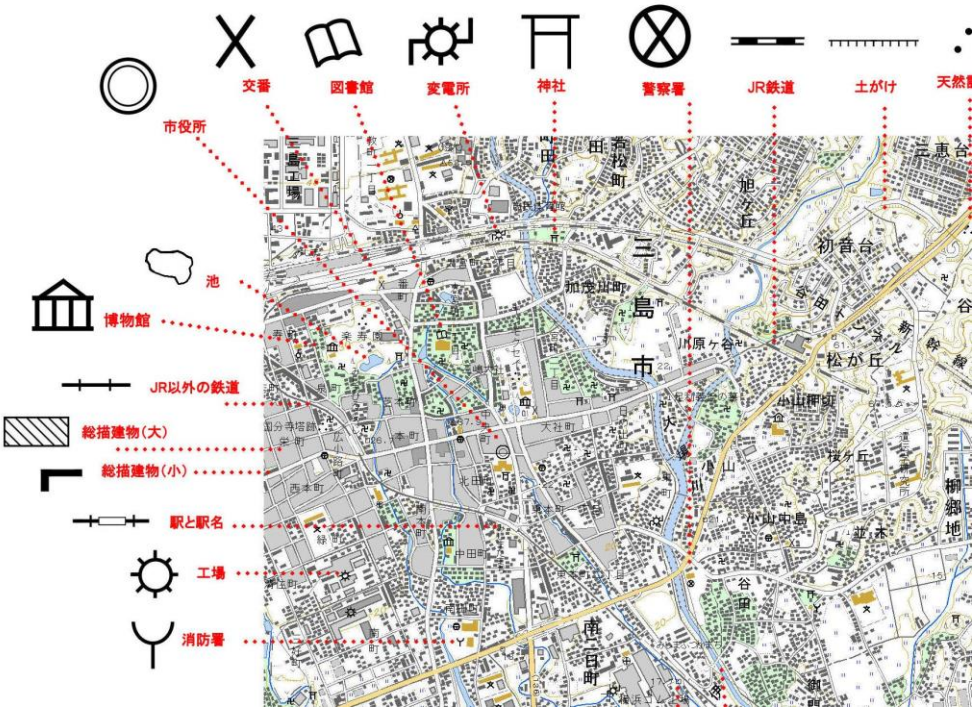
また、居住地名称や公共施設名称などは、市町村が作成して国土地理院に提出する「地名調書」を基本として表示する。ただし、山岳」や湖沼、河川名称などの自然地名は、現地現称といって、現地でどのように呼んでいるか、一般的にどのように呼ばれているかがが重要視されて表記される。

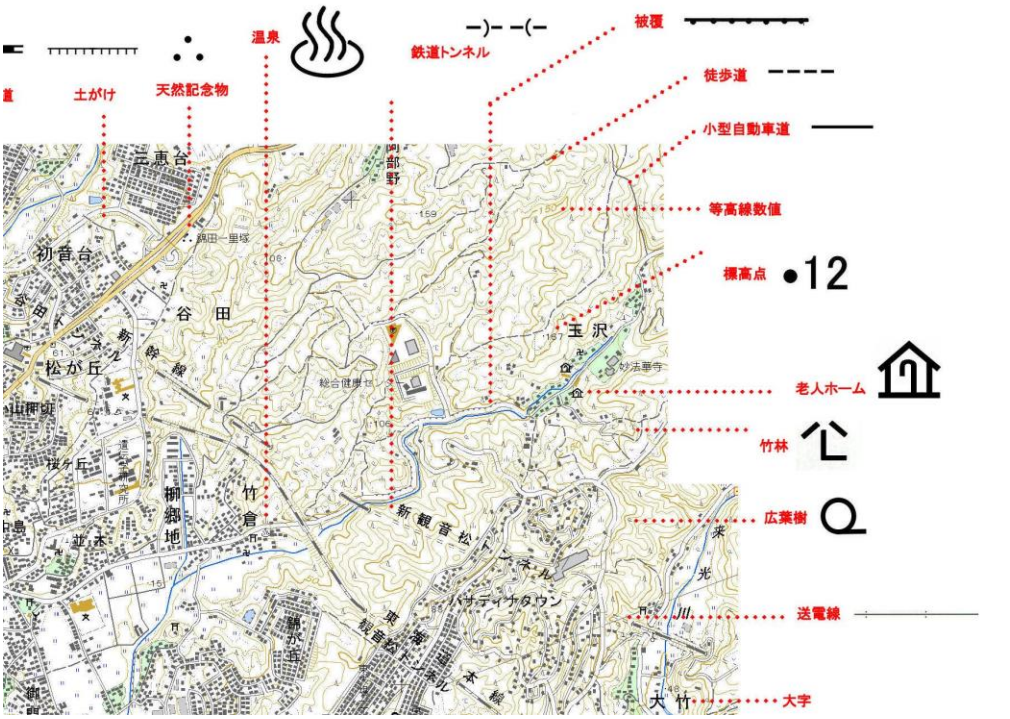
地図を広げて机上散策しただけでもわかること、疑問に思うことが多くわいてくるから、その後現地を訪ねて「これは何の記号なのか」から始めて、次のステップでは「どうして

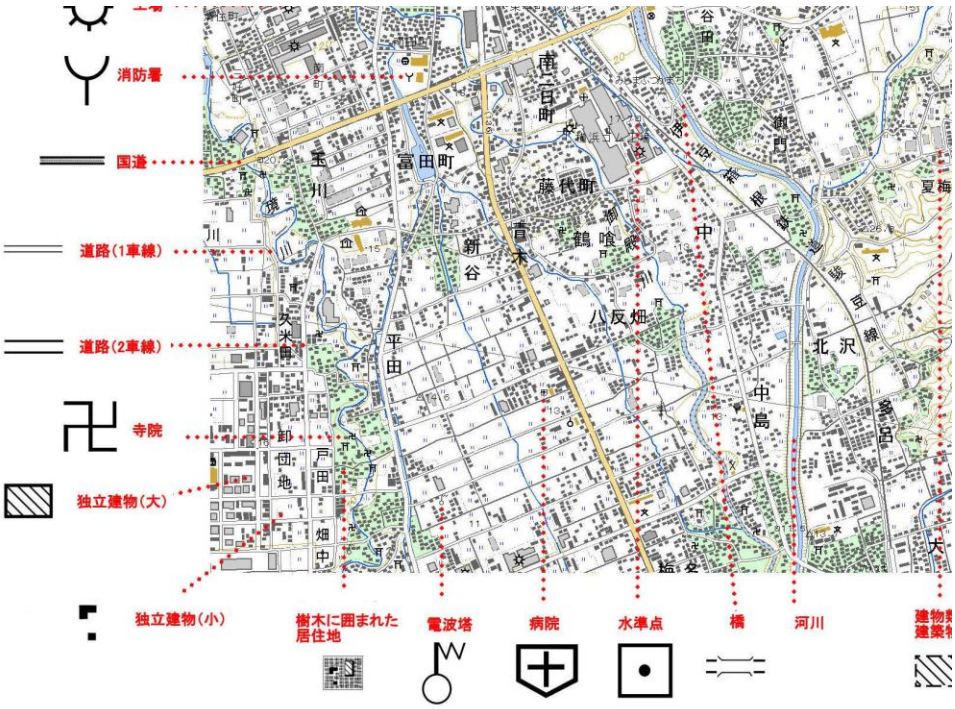
このような表現になるのだろう」などと現地で確認することで、地図知識を自らのものにし、身につけるといいだろう。

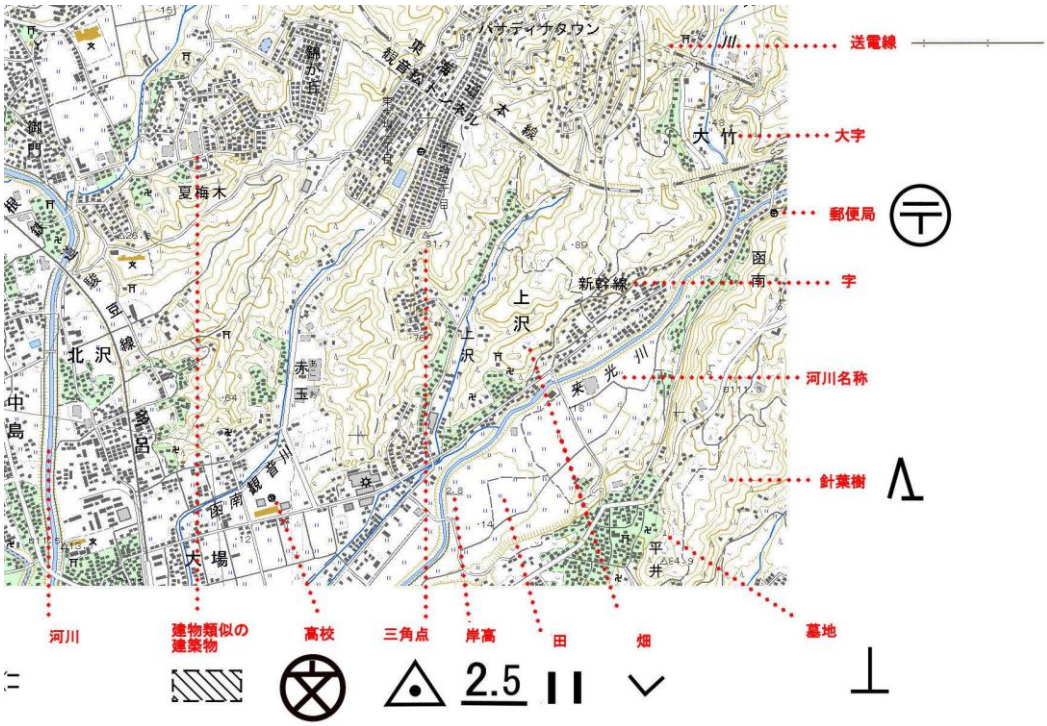
〇おまけ

　今回のコース周辺にはこんなに多くの地図記号がある。




土がけ
天然記念物
温泉
鉄道トンネル
被覆
徒歩道
小型自動車道
等高線数値
標高点
12
老人ホーム
竹林
広葉樹
送電線
大字
元恵台
初音台
谷田
松が丘
桜ケ丘
柳郷地
竹倉
並木
岡部野
玉沢
妙法華寺
総合健康セ
新観音松トンネル
東海道本線
観音松トンネル
バサディナタウン
大竹


消防署
国道
道路(1車線)
道路(2車線)
寺院
独立建物(大)
独立建物(小)
樹木に囲まれた居住地
電波塔
病院
水準点
橋
河川
建物集
建築物
富田町
玉川
新谷
平田
矢米田
卸団地
戸田
畑中
藤代町
八反畑
中島
北沢
夏梅
大



+＊＊＊+　オフィス　地図豆　yamaoka　mitsuharu　+＊＊＊+

夏休みに自由研究で地図記号を勉強する人に

　夏休みになると、私のブログにも夏休みに自由研究のことでの訪問者が増える。
　もちろん HP「おもしろ地図と測量」>も同じなのだろうが、こちらはアクセス数などをまったく管理していないから現在のようすは分からないが、そこにも役に立つものはいくらか残っている（ただし、HP は現在全く維持管理していない）。
　ともかく、自由研究で地図記号をとりあげる者のために、このブログで、少しだけヒントになるかもしれない地図記号に関連した街歩きの例を紹介する。
　といっても、これは、執筆との関係で過去に使用したものだから、あくまでもこれをヒントとして何かアイデアを加えるといい。

地形図を購入するには（これが一番難しいかも知れない）には、日本地図センター（http://www.jmc.or.jp/）か、大きな書店で買い求める。

　地図、地図記号などのことは、「おもしろ地図と測量」の「地図記号のすべて」>に、あるいは、国土地理院 HP の「いろいろな地図記号」>や、「２万５千分１地形図の読み方・使い方」にある。

①　自分の住んでいる町などの地形図を購入する（これが一番難しいかも知れない）。日本地図センター（http://www.jmc.or.jp/）か、大きな書店で買い求めることができる。

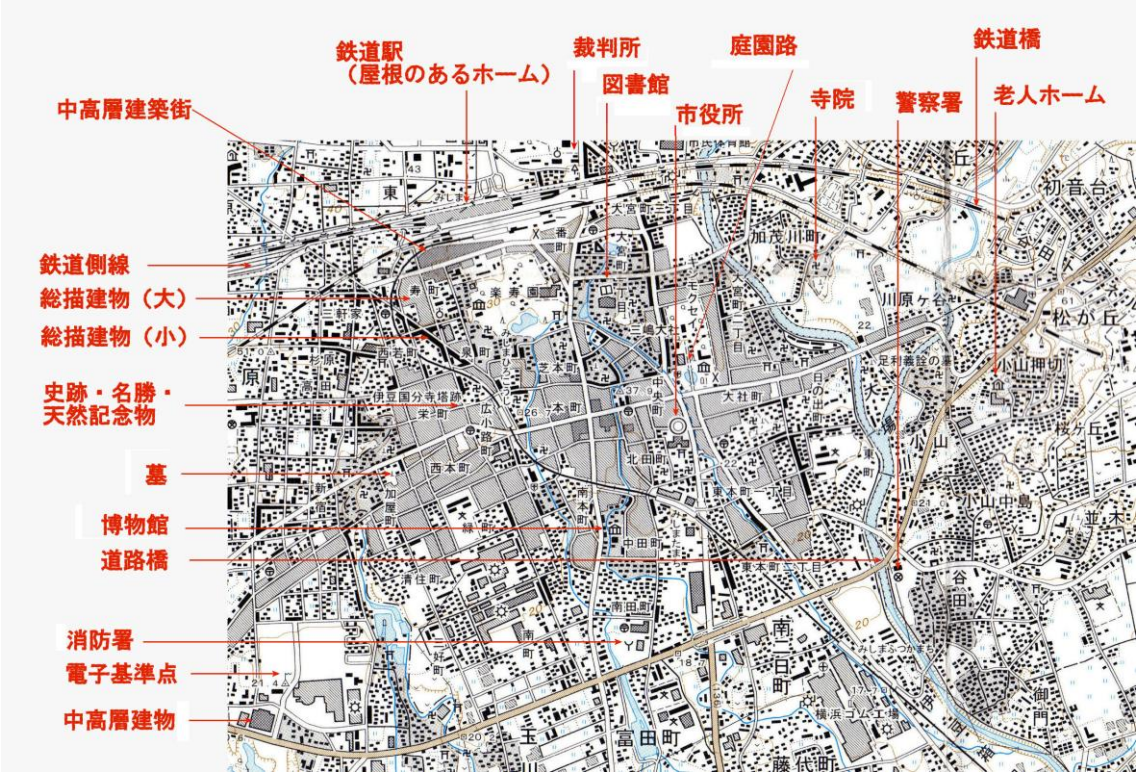
②　地形図にある地図記号から代表的なものを選び出し、それぞれの記号は、なにを表わしているものなのかを現地で調べて、写真を撮る。

③現地の写真と地図、地図記号との対照表を作る。その要領は、国土地理院の「いろいろな地図記号」http://www.gsi.go.jp/KIDS/map-sign.htm　以下にある。

④分からないことがあれば、同じ国土地理院の「いろいろな地図記号」や「２万５千分１地形図の読み方・使い方」http://watchizu.gsi.go.jp/riyou/　が参考になる。

⑤対照表だけでは、工夫が無いので、それ以降のことはそれぞれがアイデアを追加する。
・対照表にコメントを付ける。
・地図と地図記号について気付いたことを整理する。

・（使い手として）地図記号を分類する。・・・
・一定のエリアで記号の数を数えてみる。



神社

地図記号		メモ

警察署

地図記号		メモ